

2023年度の鉄鋼需要見通し

2022年12月21日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

日本経済／2023年度は緩やかに回復も、世界経済減速が下押し

2022年度 日本経済は緩やかに持ち直している。世界的に物価が上昇し世界経済が減速するなか、内需主導で緩やかな回復が見込まれる。行動制限が緩和されるなか、個人消費がサービス業を中心に改善しているほか、企業業績の改善を背景に設備投資が堅調に推移している。輸出は供給制約が緩和されるなか増加基調を辿る。

2023年度 前年度に続き内需主導による回復も、世界経済の減速が下押しとなる。経済活動は正常化し、サービス業を中心に個人消費が回復する。設備投資は、コロナ禍で先送りした投資やDX投資等に支えられるものの、外需の鈍化を背景に前年から縮小すると見られる。輸出は、金融引締め等に伴う海外経済の減速が下押し圧力となる。

鉄鋼需給／2023年度の鉄鋼内需は前年度比で微増

2022年度

鉄鋼内需 前年度比で微増を見込む。建設業では、土木部門は、人手不足による工事遅延や資材費上昇等により、需要は前年割れを見込む。建築部門では、倉庫・物流施設、データセンターが堅調に推移していることに加え、工場も回復を見せており、鋼材需要は増加する見込みである。製造業では、自動車部門の供給制約が最悪期は脱したものの、半導体不足の影響から回復は限定的である。機械部門は、好調な輸出向けに加え、国内の設備投資が持ち直していることから、鋼材需要は増加を見込む。他方、造船部門では受注低迷に伴う生産能力削減や建造のスローダウン等から、鋼材需要は前年割れを見込む。

鉄鋼外需 前年割れを見込む。国際市場の需要低迷等、輸出環境の悪化により、ASEANを始め主要向け先で減少し、日本の鉄鋼輸出は2年ぶりの前年度比減少となる見込みである。

粗鋼生産 2022年度の粗鋼生産は9千万トン前後と前年割れとなる見込みである。

2023年度

鉄鋼内需 総体的には底堅く推移する見通しである。建設業では、土木部門が国土強靱化政策による需要増加の見通し。建築部門では、非住宅分野で倉庫・物流施設に加え、首都圏を中心に大型案件が堅調に推移することから、鋼材需要の増加の見通し。製造業では、自動車部門では、半導体不足等の供給制約が解消には至らず、外需も鈍化することから、回復は限定的となる。機械部門では、設備投資が前年から縮小するものの、堅調な建機需要を背景に鋼材需要の増加が予想される。他方、造船部門では前年度同様、前年割れとなる見通し。

鉄鋼外需 海外経済の減速から前年割れとなる見通し。

粗鋼生産 粗鋼生産は前年度比微増となる見通しである。

リスク ロシア・ウクライナ戦争の影響による原燃料費高騰の継続、世界の景気後退、サプライチェーンの混乱に伴う部品等の不足による供給制約の継続

